

眼科

■ スタッフ

科長	近藤峰生	
副科長	生杉謙吾	
医師	常勤	20名
	非常勤	6名
視能訓練士		7名

■ 診療科の特色・診療対象疾患

眼科の特徴

三重大学眼科では、現在、あらゆる眼科疾患（眼形成・眼窩疾患分野を除く）に対して、診断と治療をおこなっています。

初診外来は、月曜日から金曜日の8:30～11:00で、紹介状をお持ちでない初診患者さんの診察も受け付けています。（紹介状をお持ちでない場合、別途「選定療養費」がかかります。）特に、火曜日と水曜日の教授外来には、難治性の網膜疾患の方を中心に全国から患者さんが受診されています。再診は、予約制となっています。

三重大学眼科が得意とする疾患は、網膜硝子体疾患（糖尿病網膜症、網膜剥離、黄斑円孔、黄斑前膜などの診断と手術治療）、加齢黄斑変性（抗血管新生療法、光線力学的療法）、網膜変性疾患（網膜色素変性、黄斑ジストロフィーなどの診断とリハビリテーション）、角膜疾患（角膜外傷、角膜ジストロフィー、角膜混濁に対する角膜移植術）、涙道疾患（鼻涙管閉塞に対する内視鏡手術や耳鼻科との合同手術による涙囊鼻腔吻合術・鼻内法）、緑内障（難治緑内障に対する手術治療）、白内障（小切開超音波白内障手術）、斜視・弱視（屈折矯正と斜視弱視訓練及び手術）、小児眼科（先天白内障、先天緑内障、未熟児網膜症などの小児眼疾患）、ぶどう膜疾患（サルコイドーシス、ベーチェット病、原田病など）です。

また、眼科医が24時間365日院内待機をしている県内では数少ない病院の一つで、特に眼外傷の緊急手術など、眼科二次救急を担当しています。

■ 診療体制

主な専門外来

三重大学眼科では、特に専門的治療が必要な疾患、治療の困難な疾患、頻度の高い疾患については専門外来を設け、その分野についてのエキスパートが

治療を担当します。

1) 教授外来

近藤教授の外来には、難治性眼疾患の患者さんをはじめ、全国からあらゆる眼科疾患の患者さんが受診されていますが、特に教授の専門分野は、網膜硝子体疾患、網膜の機能評価（臨床視覚電気生理）です。

2) 網膜硝子体外来

網膜剥離、黄斑部疾患（黄斑上膜、黄斑円孔、黄斑浮腫、中心性漿液性網脈絡膜症など）、網膜静脈閉塞症、網膜動脈閉塞症、増殖硝子体網膜症、硝子体出血などの診断および治療をおこないます。特に重症型糖尿病網膜症、日本でも中途失明原因の上位となっている加齢黄斑変性という網膜の中心部に異常を来たす疾患の専門治療もおこないます。手術治療が中心となることが多いですが、加齢黄斑変性に対しては、蛍光眼底造影検査などによる正確な診断と硝子体注射と呼ばれる眼内注射治療および光線力学的療法をおこなっています。

3) 緑内障外来

日本でおこなわれた大規模調査によると、40歳以上の日本人では20人に1人の割合で緑内障患者が存在すると言われていています。また日本における失明原因のトップは緑内障です。緑内障外来では、最新の検査機器を使った早期診断から長期的な点眼治療、重症例に対する手術治療まで緑内障のトータルケアをおこないます。

4) 角膜外来

角膜感染症（細菌、真菌、ウイルスなど）、ドライアイ、円錐角膜、水疱性角膜症や遺伝性の角膜疾患などの診断と治療をおこなっています。特に角膜感染症の迅速診断や角膜移植治療を積極的にこなっています。

5) コンタクト外来

円錐角膜や角膜の強い乱視などの眼疾患があり、通常のコンタクトレンズができない方を対象に経験豊富な角膜専門医がコンタクトレンズの処方をおこないます。

6) 涙道外来

成人の鼻涙管閉塞症、乳幼児の先天鼻涙管閉塞症に対し、涙道内視鏡を用いた検査及び治療をおこなっています。また、当院耳鼻咽喉科とも

連携し、流涙症に対し顔に傷が残らない涙嚢鼻腔吻合術鼻内法をおこなっています。

7) 小児眼科外来

視機能発達の重要な時期にある小児が罹患する斜視、弱視、先天白内障、先天緑内障、未熟児網膜症などの疾患の診断、治療をおこないます。また、視能訓練士という国家資格を有する7名の専門スタッフが丁寧に時間をかけて小児の検査・訓練をおこないます。

8) ロービジョン外来

現在の視機能の評価し、読み書きのための道具（ルーペ、拡大読書器、音声パソコンなど）の選定、白杖、日常生活補助具の紹介や身体障害者手帳申請の相談、視覚障害者用社会福祉関係の施設や職能訓練施設の情報提供などをおこなっています。ロービジョン外来は、完全予約制です。

■ 治療実績

1) 外来患者数 (人)

	30年度
総外来患者	31,021
総初診患者	1,688
県外からの紹介患者	50
小児(15歳以下)の紹介患者	202

*特に平成30年度は眼底三次元画像解析検査11,706件、涙管チューブ挿入78件などを外来にて施行

2) 入院患者数 (人)

	30年度
総入院患者(人)	7,188
平均在院日数(日)	4.6

3) 外来及び入院での手術及び眼注射件数 (件)

	30年度
総手術件数	2,192
硝子体注射	2,138
テノン嚢注射	93

*総手術件数には硝子体注射及びテノン嚢注射を含まず。

4) 主な施行手術と件数 (件)

手術名	30年度
硝子体手術	373
網膜復位術	20
白内障手術	976
角膜移植術	17
緑内障手術	168
斜視手術	66

■ 臨床研究等の実績

当科からの論文発表や学会発表実績は以下の通りです。(平成30年度の代表的なもののみ掲載)

<英語論文>

●Matsubara H, Uchiyama E, Suzuki K, Matsuda Y, Kondo M: A Case of Focal Choroidal Excavation Development Associated with Multiple Evanescent White Dot Syndrome. Case Rep Ophthalmol 9(2):388-394, 2018

●Miyata R, Kondo M, Kato K, Sugimoto M, Matsubara H, Ikesugi K, Ueno S, Yasusda S, Terasaki H: Supernormal flicker ERGs in eyes with central retinal vein occlusion: Clinical characteristics, prognosis, and effects of anti-VEGF agent. Invest Ophthalmol Vis Sci 59(15):5854-5861. 2018

●Nunome T, Sugimoto M, Kondo M, Suto C: Short-Term Results of Intravitreal Triamcinolone Acetonide Combined with Cataract Surgery for Diabetic Macular Edema in Japan: In the Era of Anti-Vascular Endothelial Growth Factor Therapy. Ophthalmologica 240(2):73-80. 2018

●Sugimoto M, Tsukitome H, Okamoto F, Oshika T, Ueda T, Niki M, Mitamura Y, Ishikawa H, Gomi F, Kitano S, Noma H, Shimura M, Sonoda S, Sawada O, Ohji M, Harimoto K, Takeuchi M, Takamura Y, Kondo

M, Sakamoto T : Clinical preferences and trends of anti-vascular endothelial growth factor treatments for diabetic macular edema in Japan. J Diabetes Investig 10(2):475-483. 2019

● Matsui Y, Kondo M, Uchiyama E, Miyata R, Matsubara H: New clinical ultrahigh-resolution SD-OCT using A-scan matching algorithm. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 257(2): 255-263. 2019

<邦文論文>

●米川由賀、加藤久美子、高鷲祐布子、竹内真希、近藤峰生：骨髄移植後 100 日以上経過後に発症した、偽膜性結膜炎を伴う小児の移植片対宿主病の 1 例. 日眼会誌 122 (10) : 766-771. 2018

●佐々木拓、杉本昌彦、坂本里恵、有馬美香、近藤峰生：仰臥位が保持困難な症例に対する術者立位での白内障手術の経験. あたらしい眼科 36 (1) : 121-125. 2019

<邦文書籍>

●生杉謙吾：【長期点眼治療での注意点/ステロイド緑内障】手術治療を必要としたステロイド緑内障の症例. 眼科診療ビジュアルラーニング 緑内障 : 327-328. 中山書店. 東京. 2018

●松原央：【V. 眼科外来に必要なインフォームドコンセント】 8. 眼局所注射. すぐに役立つ眼科 日常診療のポイントー私はこうしているー : 282-285. 全日本病院出版会. 東京. 2018

<海外シンポジウム>

●Sugimoto M: Taiwan Ophthalmology Society Half-annual conference 2018 Bayer Lunch Symposium. Taiwan. 2018.5.27

●Matsui Y: Where is the fovea ? : New knowledge from using Ultrahigh Resolution Spectral- Domain Optical Coherence Tomography. The 3rd Taiwan-Japan Vitreoretinal Joint Meeting in Taipei. Taiwan. 2018.11.4

<国内シンポジウム>

●近藤峰生: 網膜疾患の構造と機能. 第 7 回日本視野学会 学術集会 シンポジウム. 金沢. 2018.5.13

●杉本昌彦 : 抗 VEGF 薬硝子体注射の全身への影響. 第 43 回日本微小循環学会総会 シンポジウム 2. 旭川.

2018.6.9

●加藤久美子 : RETeval で測定した ERG の解釈. 第 66 回日本臨床視覚電気生理学学会 シンポジウム 1. 浜松. 2018.9.22

<教育講演>

●Kondo M: Clinical application of the mfERG. The 56th Annual Symposium of the International Society for Clinical Electrophysiology of Vision(ISCEV). Reims, France. 2018.6.18

●Kondo M: A Clinical diagnostic approach to retinal disease. The 56th Annual Symposium of the International Society for Clinical Electrophysiology of Vision(ISCEV). Reims, France. 2018.6.19

<インストラクションコース>

● Kondo M: ISCEV Instruction Course: Clinical Usefulness of Electrophysiology. APAO2019. BANGKOK, THAILAND. 2019.3.8

<教育セミナー>

●近藤峰生 : 網膜静脈閉塞症の治療戦略. 第 57 回日本網膜硝子体学会総会 教育セミナー2. 京都. 2018.12.9

●松原央 : 蛍光眼底造影検査 (FA・IA) . 第 57 回日本網膜硝子体学会総会 教育セミナー1. 京都. 2018.12.9

(その他の業績等は、下記の三重大眼科公式ホームページをご覧ください。)

 <http://www.medic.mie-u.ac.jp/ophthalmology>